

指定管理者制度導入施設の管理運営状況【対象年度:令和7年度】

※1～6:所管課記入、7:指定管理者記入、8～9:指定管理者及び所管課記入、10:指定管理者及び所管課記入(実施した場合)

所管部・課	観光スポーツ部山岳高原観光課
指定管理者	(一社)長野県山岳協会事業管理

1 施設名等

施設名	長野県山岳総合センター	住所 電話 ホームページ	大町市大字大町8056-1 0261-22-2773 https://www.sangakusogocenter.com/
-----	-------------	--------------------	---

2 施設の概要

設置年月	昭和44年5月	根拠条例等	長野県山岳総合センター条例
設置目的	山岳に関する研究及び調査、安全な登山に関する知識及び技能の普及啓発その他の山岳における野外活動に関する教育事業、山岳における野外活動に関する普及事業を行う。		
施設内容	教室・講堂及び体験室 宿泊設備 7人部屋(2段ベッド)7室 食堂、浴室		
利用料金	宿泊施設:一般1,250円、小・中学生及び高校生600円 教室・講堂及び体験室:専用する場合 2,700円/3時間、専用しない場合 一般200円/3時間 小・中学生及び高校生100円/3時間 人工岩場:一般300円、小・中学生及び高校生150円		
開所日	閉館日(月曜日、祝日の翌日、年末年始)		
開所時間	9:00～20:00		

3 現指定管理者前の管理運営状況

期 間	管 理 形 態	管理受託者又は指定管理者等
平成27年度～令和元年度	直営(管理委託)・指定管理・その他()	長野県山岳協会
平成24年度～平成26年度	直営(管理委託)・指定管理・その他()	長野県山岳協会・やまたみ

4 報告年度の指定管理者等

指定管理者	一般社団法人長野県山岳協会事業管理	指定期間	令和7年4月1日 ～令和12年3月31日(5年間)
選定方法	公募(応募者数:1者)		

5 指定管理料(決算ベース)

令和7年度(A)	令和6年度(B)	差(A)-(B)	※(A):当該年度、(B):前年度(以下同じ)
27,565 千円	26,239 千円	1,326 千円	
	増減理由	物価高騰分の増	

6 指定管理者が行う業務

・施設及び設備の維持管理に関する業務 ・センターの利用の許可及び利用に関する業務 ・山岳に関する研究及び調査並びに山岳における野外活動に関する教育事業及び普及事業の企画及び実施に関する業務 ・上記に付帯する業務
--

7 利用実績等

(1) 利用実績【指標:利用者数・利用件数・稼働率】

(単位:人、件、%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和7年度(A)	657	760	874	834	528	817	774	612	487	452	609	413	7,817
令和6年度(B)	666	470	625	700	555	538	470	516	369	454	587	341	6,291
(A)/(B)	98.6	161.7	139.8	119.1	95.1	151.9	164.7	118.6	132.0	99.6	103.7	121.1	124.3
増減要因等	人工岩場利用再開に伴い、利用者は大きく増加した。												

(2) 利用料金収入

(単位:千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和7年度(A)	61	82	95	120	74	74	63	69	57	122	175	68	1,060
令和6年度(B)	79	50	94	124	65	64	57	54	120	55	174	61	997
(A)/(B)	77.2	164.0	101.1	96.8	113.8	115.6	110.5	127.8	47.5	221.8	100.6	111.5	106.3
増減要因等	施設利用料金の見直しを実施したため、昨年度に比べて増額となった。												

(3) 利用料金見直しの状況(前年度と比べて)

見直しの有無	見直した場合はその内容
有・無	受益者負担の適正化を図るため、近傍類似施設の状況を踏まえて宿泊施設等の利用料金の額を改定するとともに、教室等及び人工岩場の利用について小・中学生及び高校生の利用料金を新たに設定した。 宿泊施設：一般1,250円(改定前 1,050円)、小・中学生及び高校生600円(改定前 520円) 教室、講堂及び体験室(専用しない場合)：一般200円/3時間(改定前150円/3時間)、小・中学生及び高校生100円/3時間 (新設) 人工岩場：一般300円/日(改定前 100円)、小・中学生及び高校生150円/日(新設)

(4) 開所日・時間の見直し等の状況(前年度と比べて)

開所日数	開所時間	見直しの有無	見直した場合はその内容
令和7年度(A)：290日 令和6年度(B)：291日	令和7年度(A)：9:00～20:00 令和6年度(B)：9:00～20:00	有・無	

(5) サービス向上のため実施した内容

・利用者入口の玄関ホール周辺及びボルダリング壁のある体験室の清掃は毎日、宿泊室を含めた館内全体の清掃は週1回行った。 ・人工岩場は、年1回専門業者による設備点検を実施するとともに、職員による定期的な点検を行った。 ・ボルダリング壁のホールドの付け替えとルートのセッティングを実施した。ボルダリング壁の一部については、マンスリーウォールとして毎月ホールド替えをすることで、利用者に飽きのこない工夫を行った。
--

(6) その他実施した取組内容

・利用者がより快適に施設を使えるよう、教室のブラインドを交換した。また、ボルダリング室の外窓に日よけ用のすだれを設置した。 ・人工岩場を安全に利用できるように、ハチの巣型の模型を設置したところ、ハチの巣を作らない効果が見られた。

(7) 利用者の主な声及びその対応状況

[○：好意的な意見 ●：改善等を求める意見] ○清掃が行き届いてよかったです。 ○大変使いやすかったです。●施設全体が古く、いろいろな点で不便さを感じた。 ●近くに駐車場があれば助かります。 ●建て替えが必要なのではないかと思う。そうなればもっと活用したい。

8 管理運営状況(実施状況及びそれに対する評価を記入)

※項目は施設の状況に応じ加除修正してください。

項目	指 定 管 理 者	所 管 課	評価
施設の目的に沿った管理運営	・事業計画書に基づき、安全登山と野外活動の普及啓発を図るための各種講習会や研修会、教室を計画通り開催した。 ・調査研究として、「登山中のヒヤリハット」アンケートを広くお願いした。令和8年3月末時点の回答数は413件。結果の公表を、令和8年度に予定している。	・協定書、仕様書及び事業計画書に基づき、適切な施設管理を実施したと認められる。 ・習熟度別や目的別など幅広い層に向けて、知識や技術の普及に向けた講座を開講。またSNS等を活用し、登山中のヒヤリハットの経験に関するアンケートを行う調査研究に新たに取り組むなど、登山者の多様化を見据えた取組を実施。 ・タイムリーな課題への対応や時勢に合わせた発信方法の工夫を行いながら、設置目的に沿った運営が行われたと認められる。	A
平等な利用の確保	・施設の利用を希望する者には、施設の定員と安全利用限度の範囲内で、適切に施設利用をしてもらった。 ・講習会の実施に際しては、公平を期すため、原則として先着順で参加を受け付けた。	・利用に係るルールを適切に運用し、平等な利用が確保できたと認められる。	B
利用者サービス向上の取組	・利用者がより快適かつ安全に施設を利用できるように、施設の清掃や設備の更新、備品の新規購入を行った。 ・施設宿泊者や講習会参加者を対象にアンケート調査を実施し、利用者のニーズをつかみ、運営の改善につながるよう努めた。	・施設利用者にアンケート調査を行うなど施設運営に利用者の声を取り入れるほか、ニーズに応じたサービスの実施に努めるなど、利用者サービスの向上に努めている。	B
県との協働	・6月と10月の2回、銀座NAGANOにて開催されたサロンセミナーに職員を講師として派遣し、信州の山の魅力を伝えたり、登山に関する相談に答えたりした。 ・県、県警、山岳遭難防止対策協会と連携し、令和8年1月に1回、ハケ岳の美濃戸口にて冬山の安全登山啓発を実施した。	・県との協働事業において、首都圏における安全登山啓発セミナー及び冬山安全登山啓発の実施にあたり、センターの専門性やノウハウを存分に発揮し、質の高い啓発となるように取り組んだと認められる。	B
自主事業	・野外活動系講習を11回、安全登山系講習を57回開催し、延べ1,291人が参加した。 ・前年度まで開講していた、「すごいぞ！信州の山シリーズ」を「信州・山の自然学校」と改め、小学生も保護者同伴で参加できる講座数を倍の8講座に増やした。 ・3年前から始まった年5回シリーズ「シニア安全登山教室」には、延べ80人を超えるシニア世代の方が参加した。 ・学校登山ボランティア派遣事業をスタートさせ、県内10校ほどからの派遣依頼に応じて、長野県山岳協会の協力を得て、登山ボランティアを派遣した。 ・タイムリーな事業として、登山道でクマの目撃が相次いでいる状況を受けて、登山をする際に気をつけるべきポイントなどについて学ぶ講座を急遽開催した。また、山菜やキノコ採り遭難増加を受け、山菜やキノコ採り遭難防止の啓発動画を作成して公開した。	・習熟度別や目的別など幅広い層に向けて、知識や技術の普及に向けた講座を開講。信州の山の魅力発信や登山の裾野の拡大に寄与した。 ・新たに開始した学校登山ボランティア派遣事業では、ボランティア登録者向けのガイド研修会を開催するなどアウトドア人材の育成にも尽力し、充実した学校登山の支援に取り組んだ。 ・小中高生及び教職員への講習を積極的に実施することにより、クライミングや登山をはじめとするアウトドアスポーツに親しむ機会の創出、安全登山の普及に資する取組を実施していると認められる。 ・タイムリーな課題に対して講座の開催や啓発動画の作成など積極的に行っていると認められる。	A

(様式2)

職員・管理体制	・仕様書及び事業計画書に基づく職員体制及び管理体制で業務にあたった。	・適正な職員配置が行われ、円滑な管理運営体制がとられた。	B
収支状況	・収入は32,941千円、支出は33,709千円で、収支はマイナス768千円だった。 ・効率の良い運営と経費削減を心がけたが、結果として収支はマイナスとなってしまった。	・収支はマイナスとなったものの、経費削減に努め、効率的な運営が行われていると認められる。	B
総合評価	・悪天候により中止となった講習が3講習あったが、利用事業と主催事業全般にわたって事故やトラブルなどなく、年度当初に立てた事業計画通りにほぼすべての事業が実施できた。 ・タイムリーな講習を開催したり、新しい事業をスタートさせたりすることができ、山岳総合センターの存在感を高めることができたと考える。	・協定書等に基づき、適切かつ効率的な管理運営を行うとともに、施設の環境改善を積極的に進め、安全管理の強化に取り組んでいる。 ・既存の取組に加え、学校登山ボランティア派遣事業を新たに実施したほか、県と協働して安全登山啓発を実施するなど、その時々課題や状況に対応し、創意工夫をもって取り組んだ点が評価できる。	B

＜評価区分＞ A:仕様書等の内容を上回る成果があり、優れた管理運営が行われている。
B:おおむね仕様書等の内容どおりの成果があり、適正な管理運営が行われている。
C:仕様書等の内容を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要である。
D:仕様書等の内容に対し、重大な不適切な事項が認められ改善を要する。

9 施設管理運営の課題

項 目	指 定 管 理 者	所 管 課
施設の管理運営の課題	(老朽化対策)当施設は、3年後の令和11年(2029年)5月に開設60年目を迎える。経年に伴い、建物の各所及び付帯設備で老朽化が認められる。これまでも必要に応じて、修繕工事を都度実施しているところであるが、今後も利用者の安全を最優先し、県と協議しながら、必要な改修及び修繕を継続的にやっていく必要がある。 (事業数増加)若手職員の採用により、従来にとらわれない、時代に即した事業も増えてきた。一方で、外部から講師を依頼いただく機会等も増えるなど、負担が多くなっているのも事実である。常にアンテナを高く持ち、事業内容を精査するとともに、限られた人数でどのように効率的かつ効果的に運営していくのか、バランスの良い経営を図っていくことが次期に向けた課題といえる。	・本施設は、登山者への安全登山の普及啓発や山岳に関する情報発信に重要な役割を担っており、近年の山岳遭難件数の増加に伴い、その重要性はさらに増している状況である。登山者等を取り巻く諸課題に的確に対応していくため、センターの役割や機能について整理する必要がある。 ・昭和44年に建設され、施設や施設内の設備の老朽化が進んでいることから、緊急性を勘案した計画的な修繕に努めていく。